

広島大学短期交換留学 (HUSA) プログラム 派遣留学報告書

	記入日	平成29年7月24日		
所属学部・研究科	教育学部3年次 (留学開始時点)			
留学先大学	インドネシア大学 (国名: インドネシア)			
所属学部・学科等名	社会政治学部・コミュニケーション学科			
在籍身分	交換留学生			
留学期間	平成28年8月9日～平成29年7月20日			
<b>1. 渡航について</b>				
ビザについて	ビザの種類: Student Visa			
	ビザ申請先: インドネシア大阪領事館			
	取得方法, 提出書類: パスポート原本、パスポートコピー、証明写真、申請書、招聘状、英文推薦状原本、英文履歴書、査証発給許可証、往復航空券のコピー			
	手続きに要した日数: 約一ヶ月			
その他必要な事前手続き	予防接種など			
出国年月日	平成28年 8月 9日			
経路	直行			
現地での出迎え	<input type="checkbox"/> 有 ( 大学関係者 )			
到着後オリエンテーションの実施状況・期間・内容	有・一週間ほど・入国後の手続きについてなど			
帰国年月日	平成28年 7月 20日			
経路	直行			
<b>2. 留学経費について</b>				
所要経費	総額		円	
	内訳	渡航費		円
		保険料		円
		教科書代(学費)		円
		宿舍費		円
		食費		円
		その他 (            費) (            費) (            費)		円 円 円

3. 授業について			
28年	1学期	8月末	～ 12月中旬
29年	2学期	2月初旬	～ 5月末
年	学期	月 日	～ 月 日
年	学期	月 日	～ 月 日
授業の概要について (カリキュラム, プログラム等)			
単位互換希望の有無		<input type="checkbox"/> 無	
学術面に関する後輩へのアドバイス		最初は英語が聞き取れなくても、挫けずがんばりましょう。	
4. 生活等について			
(1) 留学先の住居について			
住居の種類	<input type="checkbox"/> アパート		
住居の広さ	約 ? m <sup>2</sup>	同居人の有無	<input type="checkbox"/> 無
住居に附属する設備	<input type="checkbox"/> 電気 <input type="checkbox"/> 水道 <input type="checkbox"/> シャワー <input type="checkbox"/> 水洗便所 <input type="checkbox"/> 冷房 <input type="checkbox"/> 台所 <input type="checkbox"/> 食堂 <input type="checkbox"/> インターネット		
住居費	1ヶ月当たり	2 juta rupia (現地通貨)	約2万円
住居を決定した方法	<input type="checkbox"/> 留学先大学の紹介		
留学先での住居全般に関するアドバイス	掃除をこまめにしないと虫が湧くらしいです。		
(2) 医療について			
1日以上入院を要する 病気・怪我等を 入院した場合	<input type="checkbox"/> しなかった		
留学に当たり保険を 掛けた場合	<input type="checkbox"/> 掛けた		
掛けた場合	<input type="checkbox"/> 日本		
掛け金は	年間 補償額 死亡 その他 ( )	約12万円 円, 入院1日	円
留学前後での予防接種 の必要の有無	<input type="checkbox"/> 有		
有の場合, その種類, 回数, 費用, 受けた医療機関名	A型肝炎, B型肝炎, 狂犬病, 腸チフス, 日本脳炎, など		
日常的な健康について 不安が	<input type="checkbox"/> なかった		

留学先国の医療事情 (日本と比較して)	ジャカルタには日本人向けの、日本語が通じる病院があります。	
留学先での健康管理, 衛生面について特に注意すべきこと	衛生管理には気をつけましょう。	
(3) 危険を感じた地域, 状況		
(4) その他生活等に関して参考となる事項		
<b>5. 帰国後の進路について</b>		
卒業予定年月	平成31年 3月	(当初の卒業予定年月 平成 30年 3月)
卒業が遅れる見込みの場合, その理由	<input type="checkbox"/> 4年次に留学したため	
現在の状況および今後の予定・進路等		
就職活動や留学前の単位取得, 教育実習等についての工夫		
<b>6. 留学準備, 留学中に役立った書籍, ウェブサイト等</b>		
書籍, サイト名	詳細 (出版社, URL 等)	コメント
<b>7. 自由記述 (後輩へのアドバイス等)</b>		
何かわからないことがあれば、国際交流グループに問い合わせる私に直接連絡してください。		

## 学習の概要に関するレポート

私は2016年8月から2017年7月まで、インドネシアのインドネシア大学にて約1年間交換留学をしていた。インドネシア大学は、インドネシアでいうところの東京大学であり、非常に優秀な学生たちがインドネシア全国各地から集まっている。また、留学生の数もインドネシア国内の大学ではトップクラスで、アジア圏からヨーロッパ圏まで様々な国から学生を迎えている。

インドネシア大学での授業は、インドネシアで開講されているものと英語で開講されているものがあり、基本的に外国人留学生は英語で開講されているものを受講する。しかし、インドネシア語の語学留学で来ている学生は、インドネシア語で開講されている授業を受講することも出来る。また、BIPA と呼ばれている、外国人にインドネシア語を教えることを目的として設立されたインドネシア大学付属の語学学校もあり、そこではコースに分かれて初心者から上級者までがインドネシア語を学ぶことができる。

私は、基本的には英語で開講されている学部の授業を受講した。同じく授業を取っているインドネシア大学の学生は、英語のレベルが非常に高く、大学1年生でも英語でプレゼンテーションを難なく行っていた。また、積極的な学生が多く、授業で堂々と発言している姿が印象的だった。

私が受講した授業は、学生によるプレゼンテーションを中心に行うものが多く、大学1年生向けの授業でもどんどんプレゼンテーションをさせられた。また、課題の量も日本と比べて多いように感じられた。授業の内容に関する10ページから20ページ程度のレポートを英語で書くというのが平均的で、多いものだと50ページの分量を要求するレポート課題もあった。インドネシア人にとっても英語は第2言語だということを考えると、それを平然とこなしているインドネシア大学の学生のレベルの高さが伺えた。

外国人留学生にとって一番厄介なのが Semester 初めの授業登録で、留学生には情報がうまく回ってこなかったり、回ってきた情報そのものが間違っていたり、学部ごとに授業登録の仕方が違っていたりと、とにかくややこしく煩わしかった。とにかくインドネシア人の学生や友人たちと情報共有をし、互いに助け合うことで、なんとか乗り切ることができた。一番の難関は授業そのものよりも授業登録の方であると言ってもいいかもしれない。

## 生活の概要に関するレポート

私は2016年8月から2017年7月まで、インドネシアのインドネシア大学にて約1年間交換留学をしていた。インドネシアは5,110kmと東西に非常に長く、また世界最多の島嶼を抱える国である。赤道にまたがる1万3,466もの大小の島により構成されている。人口は2億3,000万人を超える世界第4位の規模であり、また世界最大のイスラム人口国としても知られる。

説明するまでもないが、日本とインドネシアの生活環境や文化・風習は大きく異なっている。なかでも、インドネシアの人口の8割以上がイスラム教徒であることから、インドネシアでの日々の生活とイスラム教は深く結びついている。しかし、だからといってそのことで非ムスリムの人々が不快な思いをすることは全くない。イスラム教の人は大変親切な人が多く、留学を終えた今となっては、ムスリムの人を見かけると安心してしまうくらいだ。文化の違いを楽しみ、その違いから学ぶ姿勢が大切だと感じられる。

インドネシア人は非常にフレンドリーで親切である。知らない人同士でもすぐに昔からの友達のように話し出す。電車で女性や子ども、お年寄りが乗ってきたら、すぐに席を譲る。空いている席に私が気が付いてない時に、わざわざ教えてくれる人がいるくらいだ。体調が悪く電車で倒れてしまった時も、周りのインドネシア人たちがすぐに席を空けて座らせてくれた。外国人に対しても、この親切でフレンドリーというスタンスは変わらないらしい。これは日本人が見習うべき点であると感じる。

この他にも良いところがたくさんあるインドネシアなのだが、もちろん日本人にとって困ってしまう所も少なからずある。おそらく日本人留学生がインドネシアに行って一番戸惑うのは、その『おおらか』すぎるお国柄であろう。大学に送ったメールが返ってこなかったり、仕事のペースが遅く期限を過ぎても必要書類が貰えなかったり、トラブルが起きても「大丈夫、大丈夫」で済まされたりと、日本の常識とはだいぶかけ離れているところが多い。幸い私の性格は、何が起こっても「まあいいや」で流せる感じだったので良かったが、友人の日本人留学生の中には、性格がまじめできっちりしているためにインドネシアのそういう『おおらかさ』にストレスを抱えている人もいた。

外国で生活をしていれば、困ることやしんどいことなど沢山あるのは当たり前なのだが、私の場合はインドネシア人たちのその人柄の良さがあつたから乗り切れてしまったといっても過言ではない。

①インドネシアの一般的な部屋



②インドネシアは猫が多い



③インドネシアの仲間たちと



④インドネシアのフードコート



⑤海外では最大級の日本祭りです司会をやりました



⑥ギリ島の白すぎるビーチと、バリ島のケチャダンス

